

仕合わせの和

第196号
H. 30. 7. 1
(毎月1日発行)

昭和の大歌手

美空ひばり

住職 谷川寛俊

横浜市港南区に唱導寺というお寺があります。私の三年先輩の菅野海応住職です。

昭和を代表する大歌手、美空ひばりさんの菩提寺です。縁があって先月ある会で数十年振りにお会いする機会があって、旧交を温めました。その折、ひばりさんのお話を聞かせて頂きました。

ひばりさん(加藤和枝)は、魚屋を営む父、清吉、母、喜美枝の長女として昭和十二年横浜で生まれ、五十二年の生涯のうち芸能生活四十年という、まさに半生のほとんどを華々しい世界で送られ、私生活でも波乱万丈の人生でした。五十歳の時、慢性肝炎を発症、そのころから信仰熱心になり、病氣と闘いながらのコンサートで、その控室では身体がつまように、そしてコンサートが無事に成功するようにと、唱導寺の菅野

住職を呼んでご祈禱をして頂いての出演だったそうです。

フアンの前で「大好きなお酒は止めませんが、歌は辞めません。」と宣言され、その時住職に飲みかけの「ヘネシー」のボトルを預けられたそうです。

人は誰もが困難にあった時、神仏にすがりたくなるものです。ひばりさんは法華経、お題目に心の安らぎと救いを求められたのでした。

最後にレコーディングされた、あの有名な「川の流れのように」は、当時刻の曲が予定されていたのを、ひばりさんたつての希望で変更されたようです。

『知らず知らず歩いてきた細く長いこの道、振り返ればはるか遠く、故郷が見える。雨に降られて、ぬかるんだ道でも、いつかはまた晴れる日があるから、ああ川の流れのようにおだやかに この身をまかせたい・・・』
ご自身の人生とはうらはらに法華経信仰によって、日々静かに過ごしたいというひばりさんの強い願いが込められた歌だそうです。

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

ひばりさんは今、実家の見える加藤家のお墓で静かに眠っています、お亡くなりになって31年経った今でも、六月二十四日には、全国各地からファンが集まり、そして住職と共にお題目をお唱えするようです。

お題目を信仰している人も、そうでない人も、ひばりさんがお唱えしたお題目を、心一つにしてお唱えするということです。

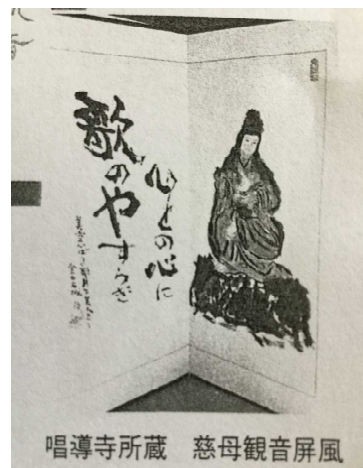
日蓮大聖人の御遺文(法華初心成仏抄)に

「籠の中の鳥鳴けば空飛ぶ鳥の呼ばれて集まるが如し。空飛ぶ鳥の集まれば、籠の中の鳥も出(い)でんとするが如し。口に妙法をよび奉れば、我身の仏性も呼ばれて必ず頭(あは)われ給う。」

と説かれています。

ひばりさんは今、多くの人達にお題目のご縁を結ばせているのです。

去る平成二十一年二十二回目の命日に当たる時、息子さんである加藤和也氏によって唱導寺に、慈母観音とひばりさんの歌詞「ひとの心に歌のやすらぎ」と書かれた屏風が寄進されました。慈母観音は、母が子に對するが如く、どこまでも深く大きい慈悲の心を表した觀世音菩薩です。ひばりさんは没後今なお、温かい慈しみの眼差しで、常に見守って下さっているのです。



唱導寺所蔵 慈母観音屏風

